

令和2年度

第42回「東海村教育振興大会」を開催しました

2月17日、東海文化センターで、令和2年度第42回「東海村教育振興大会」が開催され、受賞者や教育関係者など約90人が出席しました。式では、長年にわたり学校教育や社会教育に貢献された方々や、顕著な活躍をされた教職員・児童生徒等、37の個人・団体が表彰され、伴敦夫教育長や飛田順一さん(東海村教育研究会長)、山口香さん(東海村立幼稚園・こども園教育研究会長)から表彰状や感謝状を授与されました。

【問い合わせ】学校教育課企画総務担当(☎282-1711 内線1412)



【写真】伴教育長と文化・芸術部門表彰の代表として表彰される村松結さん(白方小学校6年)

令和2年度

環境学習プログラムの活動報告

～中丸小・村松小～

村では、「東海村生物多様性地域戦略」(平成26年3月策定)に基づき、平成28年度から村内の各小学校と連携して、本村の自然を生かした環境学習を進めています。これは、村内における生物多様性の保全・再生と、自然の恵みを持続的に得ることができるまちづくりを推進するものです。令和2年度は中丸小学校、村松小学校の5年生を対象として実施しました。各校の活動は以下のとおりです。

【問い合わせ】環境政策課環境計画・緑化推進担当(☎282-1711 内線1454)

中丸小学校

中丸小では、「『絆』北側緑地の魅力を伝えよう！」をテーマに、総合福祉センター「絆」の北側に広がる緑地で昆虫や植物、野遊びについて学ぶフィールドワークを行いました。アキアカネやノシメトンボ等の昆虫や、ニホンアカガエルやヤマカガシ等のさまざまな種類の生き物の特徴について学んだほか、セリやヤマノイモ、ヨモギ等の食べられる植物探しやサクラタデの群落の観察を行いました。また、ヨシの葉で舟を作り水路に浮かべたり、水生生物を探したりするなど、自然の中での遊び方も学びました。3学期には学習の成果を他学年の児童に発表したほか、総合福祉センター「絆」等に展示することで、「絆」北側緑地の魅力の発信を行いました。



水路にヨシ舟を流して遊ぶ様子

村松小学校



学校内のビオトープで生き物をつかまえている様子

村松小では、「村松小学校の環境政策課になろう！」を目標に掲げ、学校ビオトープの魅力を他者に向けて発信することで、東海村の自然が大好きな人を増やすことを目指しました。夏と秋のフィールドワークでは、ビオトープに生息するコミスジやミズカマキリ等の生態や食性、ジョロウグモの巣の作り方の特徴等を学習したほか、セイタカアワダチソウ等の外来種についての説明を受けました。また、3学期に授業参観で保護者へ向けて今年の学習の成果について発表するなど、学校ビオトープを通じて東海村の自然の魅力について発信を行いました。